

第 1 回 小美玉市公共交通検討委員会 会議録

①会議名	小美玉市公共交通検討委員会
②開催日時	平成 23 年 2 月 14 日（月） 13：30～15:30
③開催場所	市役所第 2、3 会議室
④議題	(1) 公共交通検討委員会の概要について (2) 小美玉市における公共交通の現状と課題について (3) 小美玉市における公共交通の基本方針（案）について (4) その他
⑤出席委員	鶴町委員長、野村副委員長、蓮見座長、岡本委員、関口委員、山口委員、萩原委員、笹目委員、内藤委員、中島委員、石塚委員、立村委員、増田委員、飯島委員、沼田委員、川上委員、額賀委員、武藤委員、長津委員、小林委員、上田委員、渡辺委員、清水委員、泰間委員、服部委員、浅見委員（代理：林委員）、寺門委員、木村委員、伊野委員、長谷川委員、金子委員、森島委員 計 31 名
⑥欠席委員	狩谷委員、島田委員、海老澤委員、小松委員 計 4 名
⑦事務局	小美玉市 市長公室 企画調整課

審議経過および審議内容	
(委 員)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市長挨拶、各委員自己紹介及び挨拶 ・ 委員長、副委員長の互選を行った。 小美玉市公共交通検討委員会設置要綱第 5 条に基づき委員の互選により委員長、副委員長を選出した。 委員長：鶴長委員 副委員長：野村委員 ・ 委員長により、本検討委員会の座長の指名を行った。 座長：筑波大学 蓮見教授 <p>以後、会議次第に従い、資料説明および審議を行った。</p> <p>(1) 公共交通検討委員会の概要について・・・事務局より資料説明。 特に質疑はなく、承認された。</p> <p>(2) 小美玉市における公共交通の現状と課題について・・・事務局より資料説明 以下、審議内容</p> <p>P7、8 の右図に各方面への流動図に記載されている割合以外は流動がゼロということでのよいのか。</p>

審議経過および審議内容	
(事務局)	上位五番目までということで、代表的な数値を示している。 これ以外の流動も当然あるが、数値が小さかったため、省いているということでご了承頂きたい。
(委員)	P17についてですが、右側の解決していくべき課題の中に市民の～とあるが、左の1～5とリンクしてくるのではないか。市が主体となっているサービスの認知度が低いからといって、課題3と繋がるということではないのではないか。
(座長)	課題3は全てに繋がるという理解だということですね。今は、課題3が⑤と繋がっていないということですが、事務局どうでしょうか。
(事務局)	全てから係ってくると思うので、資料は修正するようにします。ただし、分かりやすくするために代表的なものを結んでいるということでご了承下さい。
(座長)	分かりやすく代表的なものを結んだということで、他のものを無視しているということではないということでご了承下さい。
(委員)	P4の通院向けのデマンド交通とあるが、具体的にどういった人が利用しており、どういった場所が目的地となっているのか確認したい。 年度別にみると、21年度に利用者数は増えているのに対して、補助金が減っている理由は何か。
(事務局)	市では2つ事業があり、1つは在宅福祉事業で社会福祉協議会に委託して運行しているサービスであり、身体障害者や要介護者といった移動の制約がある方を対象に、有償ボランティアが提供しているサービスのことである。もう1つが、社会福祉協議会のヘルパーセンター事業ということで、通院介助型のサービスである。各サービスのデータ内容について、詳しいことは分からないが、事業費が減っていることで報告を受けている。要因としては、対象者が減っているということではないかと考えている。
(委員)	利用者は増えているはずだが、どうなっているのか
(事務局)	確かに利用者は増えているので、事業費が減っている要因について調査しておく。

審議経過および審議内容

- (委員) P4ですが、合併前のサービスが残っているものと考えられるが、市の中で接続しないバス路線があることが歪に感じられるが、南北間の交流がないように見られる。これの解消も一つのテーマになると考えてよいか。
- (事務局) ご指摘の通りであり、市の中央部は美野里地区と小川地区の行政界ということもあり、公共交通空白地域となっている。これが合併後も引き継がれている結果である。
青いラインは美野里にある健康館の送迎バスであり、緑のラインが医療センターバスということになっており、これについては小川地区、玉里地区の運行となっており、市全体までとはなっていない。
- (座長) 四季健康館も医療センター的な役割を担うものか。
- (事務局) 四季健康館は、余暇施設である。
- (座長) 小川、玉里地区で移動手段を持たない人は、四季健康館に行くことができず、美野里地区の人は医療センターに行くことができないという実態となっているということによいか
- (事務局) その通りであるが、美野里地区にも民間の医療機関などがあるため医療センターバスが運行していないということである。
- (座長) この図面だと、医療関係やレジャー関係別に対応した公共交通がどうなっているかということとはわからないということによいか。
- (事務局) P4の図面は、医療施設やレジャー関係施設が全て表示された図面となっている。
- (委員) 2点ばかり質問があります。
タクシーの初乗り補助について利用者制限はあるか。
高齢者の免許証変更制度はあるのか。
- (事務局) タクシー補助については、70歳以上が対象で月2回まで利用でき、年間にすると24回までである。高齢者の免許証返納制度については、まだ取組んでいない状況である。

審議経過および審議内容

<p>(座 長)</p>	<p>75歳以上になると自分で自動車が運転できずに家族の送迎しかないということだが、1966年からモータリゼーションが進展し始めており、それ以後は高齢者でも自分で自動車を運転する人が増えているのではないかと考えている。確かに今の実態では高齢者になると送迎を受けている人が多いかもしれないが、これからは高齢者でも自分で自動車を運転して外出する人が多くなるのではないかと思う。 免許返納制度に関する質問意図はなにか</p>
<p>(委 員)</p>	<p>免許返納制度があると、これを契機に自動車の運転をあきらめてもらうのに良い機会であり、意識変容を促すことができる。この制度がないとずっと自動車を運転し続けることになるため、事故が多発し安全性の面で問題があり、この制度によって高齢者の自動車事故を減らすことができると、良いのではないかと考えている。</p>
<p>(座 長)</p>	<p>免許証を返納した人にタクシー補助など他のサービスを提供すると、自動車利用をあきらめる動機になると思う。</p>
<p>(委 員)</p>	<p>タクシー補助は、市民のどの程度の人に配布しているか把握できているのか</p>
<p>(座 長)</p>	<p>希望者に渡すのか、それとも全員か。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>制度の詳細については、いくつか条件があるようなので、介護福祉課に確認し、次回報告するというところでご了承願いたい。</p>
<p>(座 長)</p>	<p>詳細は次回報告するというので、この質問の意図はなにか。</p>
<p>(委 員)</p>	<p>現在の公共交通機関ということで、タクシー利用はもっと利用されても良いと思っているので、どの程度利用しているのかなど、もう少し詳細を知りたいためである。</p>
<p>(座 長)</p>	<p>小美玉市では、かなり自動車を自分で運転している人が多いということと、高齢者になると家族の送迎に頼っている人が多いということで、この人達はそのままで良いと思うが、本当に移動手段もなく、困っている人をどうきめ細かく支援していくかが問題だと思う。その人達への支援を考えたいがために、詳細なデータを示してもらいたいということでの趣旨だと思う。</p>

審議経過および審議内容	
(委 員)	タクシー補助は当初小川町で実施されていたが、当時は年間 48～60 枚配布されていたが、どういう経緯で 24 枚と設定されたのか。
(事務局)	合わせて調べて回答する
(委 員)	どういう形でタクシー補助券を対象者に渡しているのか。聞くところによると、買い物での利用はできず、通院のみでしか利用できないということだが、外出支援であれば、買い物でも利用できるようにすべきである。初乗り料金の問題で利用者が減っているのではなく、通院目的でしか利用できない制度のため、利用者が減っているのではないか。旧小川町のときは買い物目的でも利用できていた。
(座 長)	利用制限なども合わせて調べて、次回報告すること。 時間も限られているので、次の議題に進めさせて頂きたいと思います。 (3) 小美玉市における公共交通の基本方針（案）について ・・・事務局より資料説明 以下、審議内容
(委 員)	ネットワーク方針といわれているが、論点がいくつかあると思う。市内の拠点はどう結ぶのか、民間の路線バスを活用するのかコミバスとするのか。次に市民ニーズからどういうネットワークを形成するのかを決める必要がある。これが決まれば、運行形態、運行時刻、運行本数、運賃が決まってくると思うが、その時の経費はだれが負担するのかを決める必要がある。最終的には、市が目指す将来都市構造の実現を支援するサービスが必要になるのではないかと考えている。
(委 員)	小川駅を拠点として、茨城空港、市役所、羽鳥駅を結ぶバス路線を引くことはすぐにできるのか。
(委 員)	需要予測の結果によるが、路線延長ということで認可を取れば、運行は可能であり、認可には3ヶ月必要となる。
(委 員)	かしてつバスは何故茨城空港に行かないのか。また、羽鳥駅方面まで延伸してもらいと思っている。どうしても採算性でこれがかかわないのであれば、観光協会がバスを運行しても良いと思っている。私見ではあるが、羽鳥駅～市役所～茨城空港～小川駅を結ぶ循環路線が基本として、そのバス路線のバス停留所までのアクセス手段として

審議経過および審議内容	
	タクシーがあればよいのではないかと思う。そのときに、バス停留所から数百メートル以上に住んでいる人に対して、タクシー補助を提供することによって、市内を満遍なくカバーすることができて良いのではないかと思うので、検討をお願いしたい。
(座 長)	すぐに回答は難しいと思うが、コメントがあれば頂きたいと思うので、よろしくをお願いしたい。
(委 員)	バス事業者としても利用者がいないと運行できないのは民間なので当たり前だと思う。 現在のタクシー補助はどういう条件で利用できるようになっているのか。送迎を受けている人でも家族が昼間外出してしまえば、独居老人と同じであり、そういう人達も対象として欲しい。 条件をつけるのではなく、全ての人を対象に実施してもらえば、バス利用者も増えてよいのではないか。
(委 員)	タクシー補助の条件（家族が同居している場合は利用できない）が厳しいので、緩和して欲しい。 市役所と玉里支所は道路を相当迂回しないといけないので、バイパスを作ってもらい直接いけるようにして欲しい。そうしないと地域内の循環路線の実現は難しいと思う。そのため、道路ネットワーク整備も合わせて考えて欲しい。
(座 長)	基本的には道路も含めて考えていかないといけないと思う。
(委 員)	迂回をせずに直接いけるような整備を行って欲しいということ。
(委 員)	市内の幹線公共交通を作らないといけないと考えており、そこから整備を進めてもらえればよいのではないかという事である。
(座 長)	羽鳥駅発で市役所、空港、小川駅を経由して羽鳥駅にもどるという循環路線があればよいということですね。
(委 員)	羽鳥駅～市役所～空港～小川駅を結ぶ路線があれば、この停留所から数百メートル、数キロメートル離れた人に対してタクシー補助を出して、アクセス手段としてタクシーを利用してもらうことで、地域をカバーできるのではないかと思う。 そうすることで、市民が公共交通を公平に使ってもらうことができるのではないか。この循環路線のあり方について、いくつかの運行ルートや形態などを検討してもらえればと思う。どうしても、バス事業者

審議経過および審議内容

	<p>できないということであれば、観光協会でも運行をしてもよいと思っている。</p>
(委員)	<p>今の話は基本方針の緑のラインの話だと思うが、茨城空港はまだ、1日5本で1,000人程度の利用者しかなく、路線バスを維持することができるか心配なので、小川～茨城空港の路線に任せ、市内は市役所～小川駅～羽鳥駅のトライアングルが良いと思う。バスをサポートするタクシーや幹線ネットワークは路線バスでそれをサポートするコミバスだと思うが、これからの色々なアイデアが出てくることに期待したい。</p>
(座長)	<p>本日の説明を聞いていて、小美玉市の課題がアンケート結果から明らかになったということで、3点目に市民の公共交通に対する意識の醸成とあったが、私見として、このページのトップに柱となる政策的ビジョンが必要だと考えており、それはおそらく外出支援ということで、多くの人が家に引きこもるのではなく、子供も高齢者も含めて元気に外出できるような機会を作ることだと思う。先ず、そういった大きな理念を掲げるべきだと思う。意識が低いから高めるのにはどうしたら良いかということではなく、外出支援の環境を整えていくことで、例えば、交通手段を乗り継ぐときに暑いときは待つのがいやにならないように公共交通を快適に待つことができるような施設整備を行うべきである。その施設整備というのは、極力既存の施設を活用できるとよいと思う。東京では、公共交通の待合室には必ず空調が整備されていて快適に待てる環境が作られているので、そういった環境をつくって、また公共交通を利用したいと思ってもらえるように取り組んでいくべきである。緑の循環線はそうすると現実味を帯びてくると思う。</p> <p>それと、青い線との連携も重要となってくると思う。</p> <p>また、BRTがあると思うが、これは破線ではなく実線にすると分かりやすくなるのではないか。既存路線をどう結ぶべきかというのを考えながら、もう少し噛み砕いて親切に分かりやすく方針図を修正してほしい。</p> <p>もうひとつは、一番困っている人からあまり困っていない人まで段階があると思うが、一番困っている人を最優先にすべきで、その人達というのは、一人暮らしの高齢者で病院に行きたいと思っている人であり、その人たちのニーズは切実感があり、どの辺に住んでいて、どの程度苦勞しているのかというのは、この調査内容では分からないと思う。タクシー補助の話で通院は使えるが、独居老人の方で市役所に行くには使えないというのは変だと思う。ニーズごとにちゃんと考えていくべきで、最終的には通勤・通学、買い物とあると思うが、そ</p>

審議経過および審議内容

それぞれの目的ごとのニーズを把握して、どこをどう繋げば公共交通を使ってもらえるのかというのを緻密に分析していきたい。

まとめると、P17の課題のはじめに小美玉市では、ありとあらゆる人が積極的に外出を楽しくできる支援を行い、人をまちに誘い出すという政策を掲げるべきだと思う。3つめの公共交通の意識の醸成というよりは公共交通のPRとなるのではないか。

ひとつは、ルートの問題で、やはり基幹ルートがあるべきだと思う。今はなんとなくぶった切り状態の路線が残っているようなので、それらを繋ぐような路線形態を作り上げていくべきだと思う。アメリカではミッシングサークルといわれており、これらを繋いでいくことが大事である。そのときはモーダルミックスとして、色々な交通手段を上手に繋いでいくことでバスにうまく乗ってもらえるような仕組みを作っていけばよくなるのではないか。循環路線上の主要バス停では、待ち時間がとてもつらいと思うので、快適に待てるようにターミナルステーション化を行っていくべきである。

最後にニーズに応じて、細かくどうして行くべきかを分析してみて、それぞれのニーズを踏まえて公共交通に転換してもらえるような取り組みを行っていくことが重要ではないかと思う。

小美玉市で石岡駅から通勤している人もいると思うが、石岡駅周辺にはP&R駐車場も無く、さらに国道355号は入っているので、困っていると思う。かしてつバスの小川駅周辺にP&R駐車場を整備することで渋滞に巻き込まれず石岡駅までいけるので、かしてつバスなどをうまく活用することでいい方向にむくのではないかと思う。

(委員)

P20の基本方針図に石岡駅～茨城空港までの路線が現在あるので、表記しておいて欲しい。

小川駅～羽鳥駅を繋ぐ路線があるが具体的にどの道路を経由するか考えているのか。また、小川～茨城空港は与沢経由ということでのいいか。

(事務局)

P20の図については、青い点線は実線に変えていきたいと思う。緑の線については、構想段階のため、具体的にどの道路を通るかというところまでは検討していない。あくまでもイメージである。

緑の線がどの道路を経由していくのかというのは今後の検討としていきたいと考えている。

(座長)

既存路線と構想は分かりやすく分けて表記しておくこと。

構想でも今後検討していく上でどこどこを結ぶのかというのは大事なので、次回にはもう少し具体的な資料を基に検討しておいて欲しい。以上、なければその他に移りたいと思います。

審議経過および審議内容

<p>(委員長)</p>	<p>(4) その他について・・・事務局より説明 専門部会などを実施する必要があるため、次回検討委員会は3月中旬以降ということで、日程が決まり次第連絡することで決定。</p> <p>次回の検討委員会は、3月中旬以降ということで決まりましたので、よろしくをお願いします。本日はお疲れ様でした。</p> <p>以上をもって会議は終了</p>
--------------	--